

# 生涯にわたり主体的に健康課題を解決し、健康で安全なよりよい生活を送ろうとする生徒の育成

○川原 絵美

## 1 研究主題設定の理由

前次研究では、これまで「心身の健康を見つめ、生涯を通して主体的に自らの健康課題を解決しようとする生徒の育成」を目指してきた。自分自身の健康課題を見つめたり、健康観を深めたりしながら、健康課題を改善しようとする意欲は感じられたが、具体的な実践に至ることが難しい生徒が多かった。そこで、本研究では、生徒が健康課題解決のみならず、生涯にわたりよりよい生活を実践できるようにするために、ヘルスプロモーションとセーフティプロモーションを両輪にしながら学校保健を推進していきたいと考える。また、変化の激しい予測困難な未来を生きる子どもたちが、自ら課題を見つけ・学び・考え・行動するためには、幸福感や自己肯定感、他者とつながる力を育成し、学校生活のあらゆる機会を通じて、ライフスキルを身につけさせることが重要である。これらを受けて、心理社会的能力を基盤にしながら、健康で安全・安心なよりよい生活について実践していくことで、生徒それぞれが生涯にわたり、自分自身の「ウェルビーイング」をデザインすることを願い、本主題の設定を行った。

### <主題設定に関する用語の定義>

- ・協調的幸福感(協調性や社会貢献意識)と獲得的幸福感(自己肯定感や自己実現)のバランス
- ・ライフスキル:日常生活の中で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会的能力(ライフスキルの10項目:意志スキル・問題解決スキル・創造的思考・批判的思考・コミュニケーションスキル・対人関係スキル・自己認知・共感的理解・情動に対処するスキル・ストレスに対処するスキル)
- ・ヘルスプロモーション:人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善できるようにするプロセス
- ・セーフティプロモーション:人々が平穏に暮らせるようにするため、傷害や暴力を予防し、安全・安心を創る科学と実践…WHOは、2000年より事故(傷害)・暴力予防部門を設置し、セーフティプロモーションを推進しており、ヘルスプロモーションの安全・安心版としている。具体的には、事故・自殺・暴力を予防し、安全・安心な学校づくりにつなげる。

## 2 学校保健で育成を目指す資質・能力

| 知識及び技能   | 思考力、判断力、表現力等                                     | 学びに向かう力、人間性等  |
|--|--|---|
| ○健康・安全に生活するための正しい知識を習得し、身につけた知識を自分の経験と関連づけながら自己調整する力 | ○自らの健康・安全に関する課題を捉え、健康・安全に関する知識を活用しながら、課題を解決していく力 | ○主体的に学習に取り組む力<br>○他者を尊重し、協働する力<br>○社会情緒的スキルを生かしながら、よりよい生活を実践しようとする力 |

## 3 研究内容

### 視点① 個別最適な学びと協働的な学び

- ・ヘルスチェックを通して、自らの健康を把握・自己認知し、問題解決スキルを身につける(個別最適な学び)。
- ・ICTを活用した個別の健康相談実施やメンタルヘルスチェックを行い、課題の早期発見につなげる(個別最適な学び)。
- ・保健委員会活動による健康観・安全観の広がり(協働的な学び)

### 視点② 教科等横断的資質・能力の育成

- ・生徒の心身の健康や安全は、全ての教科・領域の根幹・土台となるものである。そのため、各教科・領域とのつながりを意識しながら、健康教育講演会や保健指導を実践する。講演会は、系統性を重視しながら内容を吟味し実施する。

### 視点③ 安全・安心な環境づくり

- ・生徒と教員のウェルビーイングを考える上で、学校現場においては環境も大事な構成要素となる。(例)生徒が主体となって自他の健康安全を呼びかける。  
(例)安心して学校に通える人間関係を、生徒・学校・家庭が相互に構築する。
- ・附属教育実践・学校安全学研究開発センターとの連携を通じて、学校安全という視点で「自分や地域のウェルビーイング」を考える。
- ・自尊感情を育てる安全教育を実践することで、自分の人生を主体的に生き抜く生徒を育成する。



図 大阪教育大学附属池田中学校との「学校安全を考えるオンライン交流会」